

# 買い物で社会を変える！

各務原市立桜丘中学校  
横山 真智子

## 1. はじめに

近年、社会変革の主体として、生活者の社会的価値行動が期待されている。

一方、家庭科教育では、主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度を育むことができるよう実践している。

中学校学習指導要領には、消費者教育にかかわって次のように記載されている。

- (1) 家庭生活と消費について、次の事項を指導する。  
 ア自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。  
 イ販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。

尚、これらの内容については、「A家族・家庭と子どもの成長」、「B食生活と自立」又は「C衣生活・住生活と自立」の学習との関連や、中学生の身近な

消費行動と関連させて扱うこととされている。

また、教科書（開隆堂）では、「身近な消費生活について」「家庭生活と消費」「商品の選択と購入」「よりよい消費生活のために（トラブル防止、権利と責任、消費者を支えるしくみ）」について学習するようになっている。フェアトレードについては、国際的な視点から見た衣生活や、食品の生産者と消費者の協力などについてふれている。

ここでは、主に、自分の消費行動が社会に与える影響を自覚する責任について取り上げ、家庭科における授業展開案を示す。

尚、「消費者知識 知っトク BOOK」に記載されている消費者の権利と責任とのかかわりでは、「3. 選択する権利」「5. 意見を反映させる権利」「3. 社会的弱者への配慮をする責任」「4. 環境への配慮をする責任」との関連が考えられる。

## 消費者教育活動案

(対象：小学生 高学年 ～ 中学生)

1. 題材名：買い物で社会を変える！
2. 本時のねらい クイズや視聴覚資料の視聴など通して、消費者の行動は、自分だけでなく商品を生産する地球の裏側の人たちや社会全体に影響を与えていることに気づき、主体的に商品を購入していこうとすることができる。
3. 本時の展開

	学 習 内 容	準備・留意点
見 つ め る	○いろいろなチョコレート製品を比較し、自分だったらどれを選ぶか、根拠とともに選択する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな種類のチョコレートを用意しておく。</li> <li>・買い物（食品）をする際に大切にする視点について、分類をしながらまとめる。</li> <li>※価格、好み（味）、品質、消費期限、メーカー、量、評判（口コミ）など</li> </ul>
	・おいしそうだから、〇〇がいい。アーモンドが好きだから…。 味	
	・100円で買えるから□□を選ぶ。 価格	
	・量の割には、値段が安い。お得感がある。	
	・小分けしてあるから、みんなに分けるとき便利。 販売形態	
	・いつもこのメーカーのものを買っている。 信頼	
・消費期限が長い。着色料などが入っていない。 安全		

学 習 内 容

教師の指導・援助

つかむ

- 「フェアトレード」マークとその意味について知る。
  - ・チョコレートやコーヒーについていることが多い。
  - ・フェアトレードは、「公正な取引」がされた商品だということがわかった。

フェアトレード商品を選ぶことには、どのような意味があるだろう。

【チョコレートクイズ】

- ①チョコレートの原料カカオの実はどれでしょう。
  - A: コーヒー    **B: カカオ**    C: ぎんなん    D: ブルーベリー
- ②カカオ豆がもっとも多く作られているのはどの地域でしょう。
  - A: 北緯 20 度以北    **B: 北緯 20 度～南緯 20 度**    C: 南緯 20 度以南
- ③日本人は、年間 1 人あたり何枚分の板チョコ (1 枚 55g) を食べるでしょう。
  - A: 約 20 枚    **B: 約 40 枚**    C: 約 60 枚    D: 約 100 枚
- ④日本がもっとも多くカカオ豆を輸入している国はどこでしょう。
  - A: スイス    B: フランス    C: ベルギー    **D: ガーナ**
- ⑤アフリカでは、子どもの何人に 1 人が働いているでしょう。
  - A: 4 人に 1 人**    B: 8 人に 1 人    C: 12 人に 1 人    D: 16 人に 1 人

【DVD 視聴】(約 23 分)

「世界がもし 100 人の村だったら」ディレクターズ エディション (Disc2)  
 『チョコレートも知らず 一生カカオ農園で働き続けるアペティ&コフィー兄弟』  
 (ポニーキャニオン)

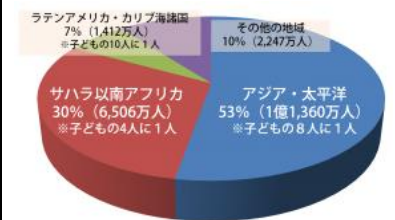
- アペティー、コフィー、母親、農園主の立場で、意見を考える。
  - ・アペティー:「学校に行きたいけど、病気のお母さんに仕送りをしなくちゃいけないから、今は農園で働くのも仕方ないかな。」
  - ・コフィー:「ぼくも学校へ行きたいな。友達ともいっぱい話したい。」
  - ・母親:「学校には行かせてあげたいけれど、子どもたちが働かないと生活できないので、カカオ農園でがんばって働いてほしい。」
  - ・農園主:「カカオの木に登って実を採る仕事は子どもたちの方がよくできる。」
- 誰もが幸せに暮らせるためには、どのようなしくみがあるとよいか考える。
  - ・フェアトレードも、世界が幸せになるためのしくみの一つだということが分かった。
- 普段の買い物で社会を変えられる可能性があることに気づく。
  - ・フェアトレード商品を買うことで、社会を応援することができることが分かった。これまでは、社会貢献という視点で買い物をしたことはなかったけれど、これからは、意識していきたい。

生活に生かす



FAIRTRADE JAPAN

- ①写真: コーヒー, カカオ, ぎんなん, ブルーベリーの写真
- ②世界地図 (赤線で緯度を表示)
- ③年間消費量 一人当たり 2.1 kg
- ⑤児童労働の地域分布のグラフ



【DVD の内容】

- ・学校に行かず、カカオ農場で働く兄弟がいる。(11 歳と 6 歳の男の子)
- ・アペティーは、母親が病気になるまでは、学校に通っていた。
- ・コフィーは、時間を見つけて兄のアペティーと勉強している。
- ・朝 5 時ごろから往復 1 時間かけて水汲みをしている。
- ・カカオ農園では、木にのぼってカカオの収穫をしている。
- ・高い木から落ちると大けがにつながるが、農園主は、落ちたとしても、本人の不注意が原因だと話している。
- ・「学校に行きたい。」 兄は、一本持っているボールペンを宝物。
- ・農園での仕事がなきときは、近くの農園に仕事に行く。

- ・セリフが書き込めるワークシートを準備しておく。
- ・フェアトレードは、誰にとって「公正」なのか、本当にフェアなのか、持続可能かという視点で考えさせる。

【評価規準】

消費者の行動は、商品を生産する地球の裏側の人たちや社会全体に影響を与えていることに気づき、主体的に商品を購入していることとする【関・意・態】。

※教師は、「ファシリテーター」として、参加者とともに考えるというスタンスで進行する。